

イエスとババは同じ真理を示している

ナイジェリアのチャールズ・オガタ神父は、ラジオ・サイ・グローバル・ハーモニーの G.ヴェーンカタラーマン博士とのインタビューの中で、「スワミの御教えの光の中で聖書を読み始めると、多くの意味や思ってもみなかったことの数々が明らかになります」と述べました。

サイ ラム。ようこそ、ラジオ・サイ・グローバル・ハーモニーのスタジオにお越しくださいました。教区民の方々はあなたをファーザー・チャールズ〔チャールズ神父〕と呼んでいると思いますが、ここ、サイファミリーの中では、ブラザー・チャールズ〔兄弟チャールズ〕と呼ばせて戴きましょう。父が兄弟になりました。この変化をどう思われますか？

ああ、いいですね。私たちは皆一つですから。

ええ、私たちは皆、神の子どもたちであり、それゆえ兄弟なのです。この前はいつ、ここにいらっしゃいましたか？ その時はどのくらい滞在されましたか？

昨年9月に来て、一ヶ月と数日間、ここに滞在しました。

あの時、スワミは何度もあなたにインタビューをお与えになりました。あれは初めての訪問だったのですか？ インタビューはいかがでしたか？

はい、あれがまさに初めての訪問でした。インタビューの体験は素晴らしいものでした。言葉にはできません。

あなたはいつ、どのように、バガヴァン・シュリ・サティヤ・サイ ババのことをお聞きになったのですか？

約5年前です。私は別の神父からスワミのことを聞きました。その方のお名前はアラズ神父といい、シルディ・サイ ババの信者でした。神学校で私の教師だった方です。アラズ神父はある講義の中でババ様についてお話しになりました。後から神父は、ハワード・マーフェット氏の著書である『サイババー奇跡の人』という本を私にくださいました。

その本はあなたにどんな感動を与えたのですか？

私が一番感動したのは奇跡ではなく、奇跡の背後にある真理でした。

その真理とは何ですか？

その真理とは、万物に遍満する唯一者、神そのもの、「見える」ものの背後に存在している「見えない」ものです。奇跡は隠れているものを「見える」ようにし、同時に「見えない」ものを明らかにします。その本は、真理に関する内なる探求へと私を後押ししてくれました。

しかし、あなたはローマカトリック教会の司祭です。聖書の中でイエスが数多く行った奇跡を読んでおられたはずですが、イエスは同時に深い真理を示していました。聖書の研究は、あなたの心にこの疑問を呼び起こさなかったのですか？

もちろん、それはありました。しかし、これは「目を開かせる」体験だったのです。私の人生におけるビッグバン（宇宙大爆発）のようなものでした！ 実際、果実は熟したときに初めて木から落ちるのです。そのような瞬間、人は当然ながらより深い真理に引き込まれます。17歳の時、私は人生行路を変える不思議な体験をしました。ある声が私に告げたのです。「おまえはこの人生で何をしたいのか？」私は言いました。「あなたに私の人生を捧げる以外に何があるでしょう？」その声は、生きたエネルギーでした。私はそのエネルギーと一つでしたが、それでも尚、そのエネルギーを探し求めていたのです！ その体験があったため、神学校に入学しました。九年間ずっとこの「内なる声」を探し求め、それが無駄に終わった後、私は完全に霊的暗闇のようなものに包まれていました。その時にババ様が来られたのです。私にはババ様がその内なる声であるとわかりました。ババ様が私の探し求めてきた御方だとわかったのです。

この問題に関して更に深く入る前に、お決まりの現実的な質問をさせてください。本を通してスワミを紹介してくれたアラズ神父は、シルディ ババの信者であったとおっしゃいました。そのことで、アラズ神父は問題に巻き込まれなかったのですか？

実際、アラズ神父は数多くの問題に遭遇されていました。しかし、神父はご自分がそれらの問題を超越しているとおっしゃっていました。アラズ神父の自宅の前には、シルディ ババ様の大きな神像がありました。かつて、神父は私に

おっしゃったことがあります。「見てごらん、チャールズ、私は自由を勝ち取ったのだよ」この言葉には多くの意味があります。当局〔教会〕は、いかなる宗教の枠内にもアラズ神父を閉じ込めることはできないとわかっていたのです。

私自身が教えて戴きたいのですが、聖なる書物である『聖書』は、この種の自由を禁じているのでしょうか？ 教会は禁じているのですか？ 宗教を奨励する組織があります。それらの組織は一連の規則を定めています。これらの規則は、『聖書』に書かれていることよりも厳しいのですか？

答は簡単、ノーです！ ババ様の教えがどのように『聖書』の精髓や宝石を引き出しているか例を挙げましょう。マルコの福音書第 12 章、29 節です。ある若い写本筆記者、つまり律法学者がやって来て、イエスに尋ねました。「すべてのいましめの中でどれが一番のものですか？」言い換えれば、聖書の最重要点は何ですかと聞いたのです。イエスはその律法学者を見てお答えになりました。「『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神はただ一人の主である。心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』 第二はこれである、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ』。これより大事ないましめはほかにない」

ババ様の教えを読んだ時、私はババ様の教えとイエス様の教えが完全に一つであることを発見しました！ 例えば、この戒律は『聖書』だけでなくあらゆる宗教の要点です。それは静寂への呼びかけで始まります。「イスラエルよ、聞け」これは「静寂の音」、オームです。真実を体験するのは静寂の中なのです。私たちは聴く技術を身につけなければなりません。聴くというのは心（マインド）の波立ちを静めるということです。『聖書』は別の章でこう述べています。「静まって、わたしこそ神であることを知れ」（詩篇：第 46 章－10 節）

その次の章句は述べています。「神はひとりであって、そのほかに神はいない！」他者は存在しません。これはアドワイタ（不二一元論）、すなわちヒンズー哲学の非二元論の核心です。神は唯一無二です。自分は神と別の存在であると考えるとき、私たちは分離できないものを分離しようとする妄想を作り出しています。神のみが存在します。この唯一の分離できない実在を、「心をつくして」愛するのがバクティ ヨーガ（信愛の道）であり、「精神をつくして」愛するのがグニャーナヨーガ（英知の道）であり、力をつくして愛するのがカルマヨーガ（行動の道）です。これは、『バガヴァッドギーター』の中でクリシュナ神が説かれたように、自己実現〔真我の悟り〕に至る三つの道です。その章句の最後の部分は、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」と述べています。「真

我」とは、万人の心の中に宿っている同一のアートマのことです。だれの中にもあるこの同一の真我を悟ることこそが、聖書や他のすべての聖典の要点なのです。

それは非常に単純なことのようによい思え、あなたは単純に思えるようにお話しになりました。しかし、事がそれほど単純なのであれば、なぜこの世界にはこれほど多くの問題があるのでしょうか？

実際は誤解なのです。人々は理解し損ねているのです。だからこそアヴァター〔神の化身〕は、私たちが神と離れていないことを理解させるために降臨されます。私たちは、自分たちが探し求めている神なのです。ババ様はテルグ語の詩句のどこかでおっしゃいました。

「私は皆さんにあらゆる聖典の要点である教えをきっぱり一文で伝えましょう。皆さんは、自分は唯一者と同一であるとの確固たる思いを抱かなくてはなりません。私は万物に内在する同一のアートマ、すなわち真我です」

すべての聖典はこのことを伝えていますが、これは、すべての聖典の要点を教えるに近づいてきた若者にイエスが教えられたのと同じ要点です。ですからすべては一つなのです。私たちは一つです。スワミの御教えの光の中で聖書を読み始めると、多くの意味や思ってもみなかったことの数々が明らかになります。

それを聞いて私は嬉しく思います。あなたは司祭であり、神父〔訳注：司祭は職業名、神父は呼称〕ですから、ご自身の信徒たちの世話をなさっています。多くの問題を抱えた教区民がいるに違いありません。世界中の至るところで問題が起こっています。もし世界が一つであり、神が唯一者ならば、なぜこれほど多くの問題が起こるのでしょう？ どこで、何が間違っているのでしょうか？

それは無知です。それは真理に対する非真理の押し付けです。

何がそれを理解するのを阻んでいるのですか？ 人間は月まで飛行できるので、それは偉大なことであり、人間は愚かではありません。つまり、私たちの理解を妨げている非常に強力な何かがあるはずですが、あなたはそれが何だとお考えですか？

探求の欠如、霊的探求をしないことです。私たちは外界については探求していますが、真我については探求していません。私たちは月へ旅をしますが、真我には一寸も近づいていません。自分自身に問いかけてください。「旅をしている

のはだれだろう？」と。そうすれば、私の言う意味がおわかりになるでしょう。

エゴ〔利己心〕が私たちを盲目にしているとお考えですか？ 私はすべてを知っている、もうこれ以上知る必要はない、というこの自己重視の感覚でしょうか？ 物質が霊性を打ち負かしているのでしょうか？

そうです。エゴは識別心の欠如からも生じます。人は「あなたはだれですか？」と尋ねます。それはエゴをもたらします。人は、決して真我の悟りをもたらす「私はだれか？」を自問しようとしません。

わかりました。では少し話題を変えましょう。単刀直入に一つ質問させてください！ 人々はババ様を神として認めていると言われていています。今、インドでは様々な理由から、それを受け入れることに問題はありません。私たちはババ様を神の化身と見なしています。わが国の文化や聖典の中では、一般に神の化身の存在は認められているのです。ですから私たちにはまったく問題ありません。しかし、異文化圏から来た方々にとっては、いわゆる二つの文化の混合があります。あなたが信仰されている宗教〔キリスト教〕は、アフリカに土着の宗教ではありません。どこか他国から来たものです。あなたの文化や伝統は、あなたが生まれたアフリカ大陸に属しています。大きく異なる入り混じった背景があるという事実にもかかわらず、あなたはスワミが神であるという見解を受け入れることができたのですか？

実際、私は一度もババ様の神性を疑ったことはありません。おそらくババ様を知るようになる前から、ババ様を知っていたのだらうと思います。私がババ様と巡り会ったのは今生だけではないのかもしれませんが。かつて、ババ様は鮮明なヴィジョンで現れて、私を抱きしめて下さいました。私の存在はその抱擁の中に溶け込みました。私の「私」が消えてしまったのです。あらゆるものがババでした。これは「声」で体験したときと同じ体験です。私はババ様と一つでした。その合一の中で、17歳のときに聞いた「おまえはこの人生で何をしたいのか？」という声がババ様だったとわかりました。しかし、「どうしてババ様が神だとわかるのですか？」と尋ねられたら、私には答えられません。ハートの中で感じるようになったのです。

あなたのハートは、それに関して何と言っているか教えて頂けますか？ あまり失礼な質問でなければ良いのですが。

私のハートは愛です。おわかりのように、ババ様は私の人生のすべてです。バ

バ様は純粋な愛です。神は愛なのです。

愛という言葉はよく万人によって使われています。神性に関連して、キリストの教え、「聖書」に関連して、ご自分の人生に関連して、あなたはこの愛をどのように理解なさっていますか？

愛とは一つであるという悟りです。一体性は神性です。この一体感がなければ母を愛することはできません。この親近感がなければ父を愛することもできません。「私の父」だから、私は父を愛するのです。私たちは万人とこの同じ親族関係を感じるようであればなりません。あらゆるものの中に、あなたの真我を感じてください。そのとき初めて、自らの真我として万人を愛することができるようになります。かつて、イエスはおっしゃいました。「これらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち私にしたのである」（「マタイによる福音書」第 25 章）これが神の愛です。神の愛は普遍的で、階級も、信条も、肌の色も関係ありません。

スワミの教えと、あなたが聖書で読まれた教えに類似点がありますか？

はい、もちろんあります。先ほど例を挙げた、『マルコによる福音書』の第 12 章、「イスラエルよ、聞け」のような教えです。

それ以外にもありますか？

それ以外にもたくさんあります。ババ様の教えの核心は、私たちに生まれつき備わった神性を絶えず思い起こすことです。ババ様はおっしゃっています。「私は神です。あなた方も神です。唯一の違いは、私はそれを知っていますが、あなた方は自分の真実を知らないことです」これは、イエスの中核となる教えでもあります。あるとき、だれかがイエスに尋ねました。「あなたがキリスト [救い主] ですか？」イエスは答えました。「私は父 [神] とひとつである」（「ヨハネによる福音書」第 10 章 30 節）これを聞いて、何人かの人々は石を拾ってイエスに投げつけました。イエスは彼らにおっしゃいました。

「私は、父による多くの良いわざをあなた方に示した。その中のどのわざのために、私を石で打ち殺そうとするのか」 彼らは答えました。

「あなたを石で殺そうとするのは、良いわざをしたからではなく、神を汚したからである。あなたは人間であるのに、自分を神としているからである」

イエスは答えました。「あなた方の律法に、『わたしは言う、あなた方は神々である』と書いてあるではないか。父が聖別して世につかわされた者が、『私は神

の子である』と言ったからとて、どうして『あなたは神を汚す者だ』と言うのか」

ですから、実際にイエス様は、現代のババ様と同じことを言っていたのです。

「私は神であるが、あなた方もまた神である！」その当時の教会の権威者たちにとって、これは「冒瀆」でした。この「冒瀆」こそが、イエスが十字架にかけられた主な理由でした。今日でもだれかが「私は神である」と言うのは冒瀆なのです。結果は火あぶりの刑と同じくらい厳しいものにもなり得ます。

では手短かに言えば、あなたはイエス・キリストの教えとババ様の教えには、本当に何の矛盾もないとおっしゃっているのですね。この時代にババ様がおっしゃっていることは、イエスがかつておっしゃったことであると。

まったく何の違いもありません。しかし、一つはっきりさせておかななくてはなりません。聖書、特に「新約聖書」がどのように記録されることになったかを考慮に入れるなら、聖書の表面上の矛盾を理解できるでしょう。キリストの時代、キリストが説教を行い、善行をしてあちこち歩き回り、福音を述べ伝えていた頃、キリストの行動や言葉を書き留めた人はだれ一人いなかったのです。それとは違い、今日ではババ様のすべての御講話がコンピューターで記録されています。これはイエスの時代にはあり得ないことでした。イエスが亡くなった後、福音書が記録されるまでに 60 年～70 年かかっています。その結果、現在、私たちが読んでいるものは、ほとんどイエスが語った言葉の解釈になります。ご存知のように、二人の人間は同じことを別々に解釈します。ですから、マタイによる福音書やマルコによる福音書などがあるのです。

では、あなたが言わんとされているのは、正確に理解すれば、キリストの教えは遅れて記録されたために何らかの歪曲や省略のようなものがあり得るけれど、ババ様の教えは聞いた人々だけでなく、電子媒体でもリアルタイムに記録されているということですね。ですから、ババ様がおっしゃった通りの、正確な、信頼できる記録があるわけです。では、非常に難しい質問をしたいと思います。あなた方は多くの問題を抱えています。文盲、病気、貧困等の問題があります。それに加え、内戦やあらゆる物事が起こっています。もちろんアジアやインドにも同じような問題はあります。あなたがアフリカご出身なので、私はアフリカについてお尋ねしています。この種の問題は、ババ様とイエス様の教えに従えば解決できるとあなたはお考えですか？

アフリカの問題は、実は、貧困や戦争ではありません。アフリカが本当に必要

としているのは真の霊性です。アフリカ人はとても信心深いのですが、十分満足できない食べ物を与えられて飢餓に苦しむ子どものようなものです。食べ続けてはいるのですが、以前より空腹です。教会は急増しているにもかかわらず、不安は募るばかりです。かつて、イエスはサマリア人の女性におっしゃいました。「私を与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、私を与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水がわきあがるであらう」（「ヨハネによる福音書」第4章14節）

真の霊性は自己満足（真我の満足）を与えます。自己満足は自己信頼（真我への信頼）の産物であり、その両方が自己実現（真我の悟り）をもたらします。自己実現は、それを飲むと命に至る泉の水であり、二度とかわくことはありません。それは万人の問題に対する解決策です。自分に本来備わった神性を悟るまで、その人の問題はいつまでも続くことでしょう。

では、話題を情報に近いものに変えましょう。あなたはナイジェリアのラゴスから来られました。当地にサイ センターはありますか？

はい、あります。

ラゴスはどのくらいの規模の都市ですか？

かなり大きな都市です。実際、アブジャに変わる前は、ラゴスがナイジェリアの首都だったのです。

ラゴス以外に、ナイジェリアの他の都市にもサイ センターはありますか？

はい、あります。エヌグ、ポートハーコート、イバダンにサイ センターがあります。ラゴスのセンターでは、毎週日曜日にバジャン会が開かれています。

あなたは何か興味深いサイ体験がおありですか？ 人々は体験を語るのを好みます。何か体験をお持ちでしょうか？

ああ！ 体験ならたくさんあります。体験は本当に衝撃を与えるものです。

一つ、話してください。

昨年、ここに到着して二日目のことです。私は他の信者たちと共に、前から二列目に座ってスワミのダルシャンを待っていました。そして、スワミが来られ、

私の目の前で立ち止まられました。スワミは永遠の愛を湛えた目で、私の目を覗き込まれました。スワミの目の静けさが、私という存在を圧倒しました。突然、スワミはお尋ねになりました。「あなたはどこから来ましたか？」「ナイジェリアです」と答えました。(実は真我の存在しない場所はないため、真我が往來することはない)「何人ですか？」と、スワミはまたお尋ねになりました。「一人です」と答えました。それは私が唯一者しか存在しないことを悟っていたからではなく、一人に来ていたからです。スワミは頭を優しく揺らして、うっとりするような微笑を向け、「ゴー (行きなさい)」とおっしゃいました。(「ゴー」は私たちが神と異なる存在であるという思いを「行かせる」ことを意味する) ダルシャン後、ババ様が来られ、呼ばれた者たち全員をインタビュールームの中に誘導してくださいました。私は部屋の一番遠い場所に座っていました。実際、私はすっかりスワミの神聖な存在の至福の中に浸りきって、我を忘れていたのです。スワミは他の信者たちと話したり、様々なものを物質化したりして、忙しくされていました。そして突然、青天の霹靂のように、スワミは私の方を振り向いてお尋ねになりました。「あなたの妻たちは元気ですか？」

この質問は、私を至福の眠りから目覚めさせました。私が投げ込まれた混乱状態を想像できるでしょう。ババ様は私に妻がいないことをご存知でした。カトリックの司祭は結婚しないことになっています。ましてや多数の妻など言うまでもありません。けれども、スワミの言葉にはより深い意味があり、人生においてこの意味を実現する力があるに違いないと気づきました。私の心は憂鬱になりました。何度か口を開きかけましたが、一言も発することができず、ただ口を閉じていました。皆の注目が一斉に私に向けられました。インタビュールームの他の信者たちは、なぜこのアフリカ人はババ様の質問に答えないのでろうと不思議に思っていたのです。身に着けていた服のお陰で、彼らは私をイスラム教徒だと考えていたに違いありません。〔訳注：イスラム教では一夫多妻が認められている〕 どう答えて良いのかわからない私を、ババ様は無視されました。私の心は様々な方向へさまよいました。

後になって、ババ様は個人インタビューの中で私におっしゃいました。

「時にあなたは結婚したいと思ひ、時に結婚したいと思わない。心配いりません。あなたは私のものです」

その後も、私はなぜスワミが一人も妻のいない私に、あなたの「妻たち」とおっしゃったのかが理解できませんでした。

ある日、私はババ様がインタビューをお与えになったイスラム教徒の帰依者たちの話を耳にしました。そのインタビューの中で、ある女性がババ様に次のよ

うな質問をしました。

「ババ様、なぜムハンマド〔イスラム教の創始者〕は11人の妻と結婚していたのですか？」

ババ様は驚いた表情でお顔を上げて、おっしゃいました。

「ムハンマド…？ 11人の妻！ いえいえ、それは違います。ムハンマドの妻はたった一人でした！…アッラーだけでした」

その話を聞いて仰天しました。私は即座に、「あなたの妻たちは元気ですか？」とババ様がお尋ねになった意味を理解したのです。その預言者（ムハンマド）には大勢の妻がいましたが、実際はだれ一人として彼の妻ではなかったのです。なぜなら、ムハンマドの唯一の思いはアッラーだけに集中していたからです。ところが、私は独身でありながら心の中に数多くの思いがあり、大勢の妻を持っていました。真の独身とは、人の心が完全に神と一つになった状態です。思考でいっぱいであれば、心は心配でいっぱいになります。それゆえババ様はおっしゃったのです。「心配いりません。あなたは私のものです」と。つまり、あらゆる思考でいっぱいの心を空っぽにすれば、あなたの心を満たしてあげましょう、ということです。心が神で満たされるなら、心は預言者ムハンマドのハートのように、英知の館に変わるのです。

このババ様との出会いは、私が貞潔の誓いの意味を理解し、より親密に、喜びに溢れて生きるのに役立ちました。司祭として、私は「聖霊の父と兄弟」という宗教集団に属し、独身の誓いを立てています。例えば米国で起こっているように、カトリック教会の独身制については数多くの議論があります。問題は結婚しているかどうかではありません。心に関することなのです。貞潔とは、人がいつどのような状況にあっても、常に神に気づいていることなのです。

なるほど、あなたをお迎えできて良かったです。お時間を取って頂き、あなたの見解と思いと体験談を聴取者と分かち合えたことに感謝します。本当にありがとうございました。ご健勝を祈ります。サイ ラム

サイ ラム

出典：「サナータナ サーラティ」2012年6月号
ラジオ サイ グローバル ハーモニーより転載